

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム えべつ ユニットB	評価実施年月日	H20年8月31日
評価実施構成員氏名	森谷 敬子 西村 郁子 平原 恵里 土佐 ひとみ 山田 洋子 横山 秀樹 佐藤 裕明 吉田 朝美 西村 恵		
記録者氏名	森谷 敬子	記録年月日	H20年9月16日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>『私たちは、人との繋がりを大切にし、楽しみが持てる生活を提供します。』をホーム運営理念に加え、町内の方と共に楽しむ時間を調整しています。</p>	○	地域の催しに参加する機会を増やしていく。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>安全で安らぎのある生活を提供する為、研修の機会を増やし、知識、技術の習得に努めている。</p>	○	統一したケアを提供できるよう研鑽に努める。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>近隣での散歩、買い物を中心、地域の方と交流を図っている。運営会議で理念などを伝えている。また、広報誌の発行で入居者様の様子をご家族に伝えている。</p>	○	より多くの地域、ご家族の方に理解を得られるよう更に交流を図っていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近隣の方との挨拶を心掛けている。近隣の花屋さんで花を見せて頂いたり、会話の仲介をしている。</p>	○	地域の方がホームに立ち寄れる機会を増やしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内行事のジギスカン会参加、ホーム主催で地域の方とのよさこい鑑賞は定例となり喜ばれている。自治会の定期総会に出席し、地域の一員として繋がりを持てるよう努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>子供110番の家として、入居者様の協力を得て看板を立てた。</p>	○	出来ることがあれば入居者様と参加していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>スタッフと理念を考えたり、消防訓練の実施により意識を深めている。職員全員が分担により自己評価担当し、参加している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>毎回、入居者様の暮らしぶりを伝え、テーマに沿って意見交換している。</p>	○	介護職員も会議に参加し、意見交換や地域の方と交流を図れるようにしていく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>毎月、入居情報を連絡している以外、具体的取り組みはない。</p>	○	市で行なう研修会などに参加するよう努力していく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修で学んだことをスタッフに伝達している。必要と思われる入居者様が居り、活用に向け検討中。</p>	○	活用に繋がる支援を進めていく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修で学んだことをスタッフに伝達している。</p>	○	外部研修への参加、内部研修の充実を図る。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約の際、高齢者の特性を説明した上、ご家族の意向を確認しながら契約を進めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	声掛けを多く心がけ、人間関係を良好に保てるよう交流を図っている。運営会議には代表1名が参加している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調変化時は受診前後に御家族連絡し、意向確認の上対応し、結果報告をしている。金銭管理報告や広報で生活の様子を定期的に報告している。	○	高齢者である為、急変時の対応、終末時の対応などについて御家族の意向を再確認しながら体制作りをしているところです。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している。苦情を受けた際は本部報告をし、改善に努めている。また、運営会議での意見を現場に伝え改善している。	○	意見箱は、より使いやすいよう工夫をしていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度、伝達や意見を聞いている。月に1度のユニット会議で本部の意向・連絡事項・検討事項を伝え建設的に議論している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者様へのサービスが適切に提供でき、職員の負担を増やさぬよう、各個人の希望も確認した上で配慮し調整している。各委員会、行事が円滑・安全に行なえるよう人員調整をしている。	○	状況に合わせた勤務調整が必要な為、各職員に状況を理解し協力が得られる様なかかわりを心掛けていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員数の都合で2ユニット間の協力体制を取っているが、その際は、入居者様に不安を与えないよう人選に配慮している。今のところは、馴染みの顔が増え入居者様に喜ばれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	運営方針に基づき、新人研修・消防訓練・各委員会を運営し、計画的に内部研修を企画、実施している。外部研修の情報を提供し、参加を促している。	○	職員のレベルに合わせた内部研修を企画・実施し、ケアに反映したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホームの会合とに可能な限り参加し、情報交換や交流をしている。	○	勤務外になることが多いが、ネットワーク作りを心がけ、職員にも促していく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	その都度、アドバイスがある。	○	具体的な内容を明確にしたい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	研修参加や資格取得を勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームの見学や茶話会の設定など体験サービスを提供する中で、ご本人と交流を図っている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人と同様サービスを提供し、コミュニケーションを図り不安の解消に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族のニーズと合致しない場合は、身体の状態なども含めて相応のサービスの情報を提供している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人、ご家族の同意の下、茶話会の設定などで他入居者様を含め交流をはかり、スムーズな意向への配慮をしている。	○	可能であれば、1日体験入居の検討をしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常生活の中で、料理や畑作業を通じ、一緒に過ごす事の喜びなどを共感できている。単に認知症介護と捉えず全人的に関わり、信頼関係を築けるよう話題づくりをしている。	○	認知症の知識習得や良好な人間関係を築くため、自己啓発が出来るよう努めて行きたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	プラン説明時や必要に応じ、ホームでの様子、健康状態等の情報提供に努め、御家族の状況などを聞きいれながらサービスの検討をしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者様と御家族の接点が多く持続できるよう、病院受診同行を依頼している。ご家族と話し合いながら、受診同行は臨機応変に行なっている。行事開催の際は、参加を促す御案内をしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	受診外出の際、入居前の馴染みの職員に会ったり、友人に合う為の援助を行なっている。入院中の御家族の面会介助も行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	歌の会、体操と共に活動している。外気浴など、気の合う方と共に関わられるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去者の見舞いを継続的にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らし方の希望・意向は、生活行動や食の嗜好からアセスメントしている。ご本人の訴えが出来る方は、話の中から引き出している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	掃除・料理・縫い物・編み物など、馴染みの暮らしに関わりを持っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の生活リズムを3食を中心に休息、活動などのリズムを作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	生活シート、家族の意向を確認しながら作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護度の変化、入退院時は現状の計画を作っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	計画チェックシート作成、生活シートに記入し見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	出来ていない。	○	入居者様にとって有効に活用できるようにしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月1回の定期的なレクリエーションボランティアの来所により、活性化に繋げている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実費負担になる為、していない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	していない。	○	対象となる方がいるので、実現に向け共同支援をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	管理者が看護師で、その都度、助言を受けている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診の先生に相談している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	管理者(看護師)に、その都度、報告・連絡・相談をし支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時の情報収集に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	全員では出来ていない。	○	入居契約時や生活ぶり、身体の状態を確認したうえで御家族の意向を確認し、職員間で情報共有できる体制を作っていく。かかりつけ医との連携を深めていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医との連携が出来ていない。	○	かかりつけ医との連携を心がけ体制作りに努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>十分な話し合いを行なっている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>それぞれの尊厳を尊重し、その方の能力に応じた対応をしている。記録など個人情報の扱いはプライバシー保持の徹底をしている。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の気持ちがわかるよう話し合いをしたり、反応や表情から気持ちを汲み取り、支援している。</p>	○	<p>もっと、入居者様の要望を取り入れた行事などを企画していきたい。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>時々スタッフの思いでレク活動などを行なうこともあるが、1日の中で身体が活性化する時間も必要と考え、取りくんでいる。しかし、体調や御本人の希望で参加しない場合は、その思いを十分尊重している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望があれば、買い物同行しご本人の好み等を尊重し洋服などを買っている。また、更衣時は御本人の意見を尊重しつつ相談にのり、服装をコーディネートしている。散髪は御家族と相談しつつ訪問理容師が対応している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>栄養バランス・季節感・行事(盆、正月、敬老会)に配慮し献立を作る。簡単な調理や盛り付けに参加して、一緒に作り食べて片付けもしている。1週間の献立を掲示板に張り出し、見て楽しんでいただいている。</p>	○	<p>ご本人の希望を聞きながら、外食も増やし楽しみたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日々の楽しみの一つとして同じ物が続かないように配慮し、入居者のリクエストを聞いたり、甘い物や旬な果物や畑で取れたものなどを提供している。自室で、誤飲の恐れのない物を食べられている方もいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご本人様の自尊心を傷つけないように配慮している。場合によっては、排尿表を使用し個々に合ったアセスメント法を検討している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	同性介助希望、時間等、ご本人の意思を尊重しながら、一人週2,3回の入浴支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の好きな時間で、自室以外でも好きな場所で休憩や睡眠をとっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	茶碗拭き、洗濯たたみ、散歩等、1人1人に合ったものを提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物同行の際は、御本人の財布から御自身で支払っていただいている。何も買わなくても、ご自分のお金を持っているだけで安心される方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物同行し、一緒に欲しい物を買っている。天気の良い日は、近所を散歩する。近所の祭りや、催し物を見学している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食、イチゴ狩り等、行事企画に沿って行ない、ご家族にも御案内し参加を促している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は近くで見守り、必要時に援助している。子機の利用で、どこでも寛いで話せるようにしている。手紙道具は常備されている。また、郵便物は各人のケースを置き管理し、御本人や御家族に渡している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日中は、自由に入出入りできるようになっている。いらっしやいませ、お気をつけて…など気持ちの良い挨拶を心掛けている。ゆっくりと寛げるよう、居室に、お茶を出している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	していない。研修会に参加し、伝達により全スタッフに周知している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は開錠している。夜間就寝後は、玄関のみ施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者を見守りやすい場所にいる。利用者の所在や様子を把握する為に、リビングでの記録や作業を心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤、刃物等の保管場所や保管方法は取り決めている。はさみや裁縫箱などは、一人ひとりの状態に応じて対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止対策委員会の定期的な開催の中で統計、分析などを行い結果をスタッフに周知を促している。委員会主催で、年2回の勉強会を行なっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	十分に行なわれていない。	○	スタッフ全員が救急講習を受講出よう、調整中です。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時マニュアルの整備はホットライン化され、非常通報装置などの対策を講じている。実践的な防災訓練も行なった。地域住民への協力の呼びかけは行なったが、災害に備えた備蓄品などの準備は出来ていない。	○	引き続き消防署の指導を得ながら、昼夜を想定した実践的訓練を実施し、災害時における備蓄品の整備をしていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時の声掛けや、カンファレンスによる対応をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを行い経過表により健康管理、異常の早期発見に努めている。変化時は管理者に報告し、アドバイスを受けている。	○	緊急時対応マニュアル整備、応急手当などの勉強会を実施していく。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人別に処方内容表を整理し、スタッフの見やすい場所に保管している。また、マニュアルに添って服薬介助をしている。	○	マニュアルに添った服薬介助、確認を徹底していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	野菜を多く取れるよう心がけ、散歩や掃除、体操など体を動かす機会を設けている。また、習慣をつけるため個々に応じ、下剤使用によりコントロールし便秘を防いでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、義歯洗浄を促し、個々の出来る状態に合わせた援助をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々のアセスメントシートに記録し、スタッフ間で情報共有している。水分は個々にあわせた目安を決め促している。	○	食事は緑黄色野菜を多く使用し、味付けやバランスも考慮し、満足感を得られる様、心掛けている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止委員会でマニュアル整備、職員への周知、勉強会などを行なっている。	○	外部研修に参加できるよう調整をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	マニュアルに添って、食事準備時は手洗い、盛り付け時など必要時ポリ袋を使用している。調理器具は毎日、ふきんは使用の度ハイター液で殺菌消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	段差のない菜園、花壇づくりをし、ホーム周辺をきれいにしている。テントを設置しテーブル・イスを置き、寛ぎの空間を提供している		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居間、壁などは季節を感じる事が出来るような、あしらいをするよう心掛けている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファの配置を工夫したり、座る場所を配慮したりしています。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	愛用品を持ってきて頂いています。		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各居室にも温度計・湿度計を設置し、適温を保てるよう、空調調節や窓を開けて換気をしています。扇風機を使うこともあります。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	バリアフリー設計、手摺りの設置により、安全に過ごしていただいている。玄関先にイスを置き、気軽に外気に触れることができるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご自信の物や、物をしまう時は、名前や何が入っているかを表示し、解りやすくしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭の横にテーブルやイスを置き休憩できるよう、また、日差しが強すぎないようにテントを設置し、快適に過ごせるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)○